

《担当者名》講師 / 土田 史郎

教授 / 泉 剛 教授 / 浜上 尚也 講師 / 水野 夏実

【概要】

本科目では、疾患発生のメカニズムや予防・治療を理解するための基礎として、人体を構成する各器官の正常な構造と機能を学ぶ。

【学修目標】

人体を構成する各器官の正常な構造と機能について理解し、説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ヒトのからだの構成 ・教科書 p.1～27	<p>人体を観察する際の基準となる体位、方向及び断面を説明できる。</p> <p>人体の階層構造（個体、器官系、器官（臓器）、組織、細胞）を説明できる。</p> <p>人体の各器官系と相互の連携の概要を説明できる。</p> <p>主な器官の名称と解剖学的位置を説明できる。</p> <p>主要な組織を構成する細胞やそれらの特徴的配列を説明できる。</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C6-(1)- 、 C7-(1)-</p>	土田 史郎
2	神経の構造と神経伝達 末梢神経 ・教科書 p. 30～74	<p>神経細胞の機能と構造について説明できる。</p> <p>神経細胞の興奮と伝達について説明できる。</p> <p>脳神経と末梢神経について説明できる。</p> <p>運動神経、感覚神経、自律神経について説明できる。</p> <p>脊髄の分節構造と反射機能について説明できる。</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C7-(1)- -2、C7-(1)- -2</p>	泉 剛
3	中枢神経 ・教科書 p. 76～104	<p>中枢神経系の構造と機能を説明できる。</p> <p>脳幹の機能を説明できる。</p> <p>大脳と小脳の機能を説明できる。</p> <p>大脳基底核の機能を説明できる。</p> <p>情動および高次脳機能について説明できる。</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C7-(1)- -2、C7-(1)- -1</p>	泉 剛
4	感覚器 皮膚 ・教科書 p. 280～306	<p>感覚器の構造と機能について説明できる。</p> <p>皮膚感覚、視覚の感覚器の構造と感覚の経路について説明できる。</p> <p>聴覚・平衡感覚、嗅覚、味覚の感覚器の構造と感覚の経路について説明できる。</p> <p>皮膚の構造と機能について説明できる。</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C7-(1)- -2、C7-(1)- -1</p>	泉 剛
5	骨格系と筋肉 （骨格系） ・教科書 p. 105～114	<p>骨の種類と構造を説明できる。</p> <p>骨の微細構造について説明できる。</p> <p>骨の機能とリモデリングを説明できる。</p> <p>骨の成長とそれに関わるホルモンについて説明できる。</p> <p>代表的な関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C7-(1)- 、C7-(2)-</p>	水野 夏実
6	骨格系と筋肉 （筋肉系）	<p>骨格筋の名称をあげ、その位置を概説することができる。</p>	浜上 尚也

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	・教科書 p.115～127	骨格筋の構造と収縮弛緩機構について説明できる。 心筋の構造と収縮弛緩機構について説明できる。 平滑筋の構造と収縮弛緩機構について説明できる。 骨格筋、心筋、平滑筋の特徴の相違を概説できる。 筋肉に関連する病態とくすりを説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C7-(1)- -1,2、C7-(2)- -2, 4	
7) 8	消化器系 ・教科書 p.129～154	消化管の構成とその構造を説明できる。 消化管での消化と吸収のしくみを説明できる。 消化管運動及び消化液分泌の仕組みを説明できる。 膵臓・肝臓・胆嚢の構造や働きについて説明できる。 主要な消化酵素や消化管ホルモンについて説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C7-(1)- 、C7-(2)- , , ,	水野 夏実

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験（100%）により評価する。

【教科書】

「パートナー機能形態学」岩崎克典、原英彰、三島健一 編 医歯薬出版

【参考書】

「人体の構造と機能」内田さえ、佐伯由香、原田玲子 編 医歯薬出版

「ぜんぶわかる 人体解剖図」坂井健雄、橋本尚詞 著 成美堂出版

【学修の準備】

当日の講義範囲を予習し、あらかじめ疑問点などを把握しておくこと（50分）。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

C6 生命現象の基礎

(1)細胞の構造と機能

細胞小器官 細胞骨格

C7人体の成り立ちと生体機能の調節

(1)人体の成り立ち

器官系概論 神経系 骨格系・筋肉系 皮膚 消化器系

(2)生体機能の調節

神経による調節機構 ホルモン・内分泌系による調節機構 オータコイドによる調節機構 血糖の調節機構

【薬学部ディプロマ・ポリシー】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【実務経験】

泉 剛（医師）、水野 夏実（薬剤師）、浜上 尚也（薬剤師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師・薬剤師としての実務経験をもとに、臨床に直結した機能形態学の知識を講義する。